

---

# 居合道だより

---

2014.06  
第95号



# はじめに



吹きわたる風に乗ってそこはかたなく  
よい匂いが漂ってくる。ああこれはなん  
の花の匂いなのだろうか、一瞬足を止  
めたくなくなってしまう、まさに風薫るこの  
季節。

稽古をするにも一番良い季節だと思う。

近頃はあちこちの講習会や錬成会でよ  
く質問をされることがある。我々の若い  
時分はほとんど質問する人はいなかった

し、質問することはむしろ憚られるような空気だった。

学問の世界や一般社会では「聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥」という言葉があるように「聞く（質問する）」ことは人間として成長していくためには最も大切な要素だと思う。

しかし、修業の間ではどうなのだろうか。昔の道場での稽古は、ただただ初発刀を抜かされて、師匠の「違う！」の一言。また延々と抜き続け、ある日突然「それだ！」の一言。

当時は、よく見もしてないくせにと思っていたが、今となっては理解ができる。見なくともその場の空気と刃音で分かるのである。

もちろん昔と今とでは社会に流れる時間の速さに格段の違いがある。昔みたいな稽古をしていては時代に遅れてしまうという危惧が、指導者にも指導を受ける側にもある。

だから質問すること自体を否定はしない。

しかし、である。以下に松原泰道禅師の言葉を紹介する。

「直指人心」という言葉がある。直ちに人の心を指す、とは、眼を外方にばかり注がずに、自己の心をよく見つめて、直につかむがよい。思考したり、分析したりしてわが心は得られるものではない。

直接にわたくしたちの心の奥にひそむ純粹な人間性に徹するがよい。

教えられる点はすべて教え、導きうるものはことごとく導き終えたとしても、なお残るものがあるでしょう。

受ける者の胸中深くに静かな爆発が起きない限り、どうしても継承できないものがあります。

プロ野球ただ一人の四百勝投手、金田正一氏の言葉。

若い選手に野球技術を教えると、やってもみないで、「先輩、どうしてですか、なぜですか」と理屈をさきに聞きたがる。僕は言ってやるんだ。「野球は口で教えて、耳で聞いてわかるものではない。身体で覚えろ」ってね。

「なぜ、どうしてもは、僕に聞かずに自分と自分の体に聞け！いつか、必ずわかるときがある。それをしないと、いつまでも身につかんぞ」ってね。

そうだそうだ！そのとおり！！



---

チャプタ 2

# 主な出来事

---



5月2日 第110回全日本剣道演武大会 京都市  
居合道演武

5月3日 居合道八段審査会 京都市

**國方孝之先生**が見事今年の最年少で合格されました。

受審者総数	151名
1次審査合格者	27名
2次審査合格者	7名

5月18日 居合道部理事会、総会 大野城コミュニティーセンター

平成26年度の行事予定、予算が承認されました。

行事予定は**別表**のとおり。

平成26～27年度の新役員が決定しました。

役員は**別表**のとおり。

# 6, 7月の予定



## 6, 7月の予定

6月8日(日)	福岡県居合道講習会 錬士、教士称号予備審査会	アクション福岡
6月15日(日)	第47回福岡県居合道大会 級審査会	福岡武道館
7月11日(金)	居合道6, 7段審査会	岡山市
7月12(土)~13日(日)	居合道地区講習会	岡山市